

大風之咽て死する者十三人あり。か様之天變前代未聞之由諸人申ひ。

——續年録記

十三日○元和三年四月略。昨○元和三年四月十二日。午、相公○徳川秀忠赴日光○野田。過小塚原橋後陣衆十三騎墮水中、其内

三人溺死云々。十一日○元和三年四月。御道具方者、於草加○武蔵國。與千重二里之間十三人咽風而死。其前

後程之事者不知云々。○下略

——寒松日記

十二日○元和三年四月。北風大吹、公○徳川秀忠發駕于日光○野田。千壽川橋○市内荒川區足立區。浮、後騎之輩溺水、且流死

者數人。

——東武編年録

日本橋改架

元和四年戊午○紀元二二七八年。是年日本橋○市内日本橋區ヲ改架ス。○慶長見聞集。武江年表。

日本橋改架事蹟

日本橋架橋 傳フ、

癸卯の年○慶長八年。江戸町より比時分新規り出來多り。其後此をし御再興あり。元和四年戊午の年也。大河なれをとして、川中へ兩方より石垣をつき出しかけ給ふ。敷板のろへ三十七間四尺、廣サ四間貳尺五寸なり。此橋よ於てハ晝夜二六時中諸人群をなし、くびきをつゐて往還たゆる事なし。

——慶長見聞集

四月○元和四年。日本橋御再興。

——武江年表

西丸大手橋修理

寛永元年甲子○紀元二二八四年。江戸城西丸殿舎ノ改造アリ、○皇城篇參照。五月○寛永元年(紀元二二八四年)。西丸

大手ノ橋○市内麴町區。修理ニ着手シ、七月○寛永元年(紀元二二八四年)。成ル。○東武實録。江戸一班。平河橋擬寶珠銘。

西丸大手橋修理事蹟

西丸大手橋修理 傳フ、

——霸都時代ノ橋梁